

# 学校図書館部会報 75

発行日：2024年3月22日

発行者：日本図書館協会 学校図書館部会（部会長：雨仮久美子）

連絡先：gakutobukai@jla.or.jp

## I N D E X

### 特集 高校の非正規雇用職員の現状

千葉県学校司書の配置状況 千葉県高等学校教育研究会学校図書館部会司書の会	… 2
東京都立高校の職員状況	中村崇 … 3
神奈川県立高校の非正規雇用職員の状況について	松本美智子… 4
長野県立高校の非正規雇用の学校司書の状況について	林貴子 … 5
埼玉県立高校の司書の状況	石黒順子 … 6
JLA 学校図書館職員状況調査について	高橋恵美子… 7
第51回夏季研究集会報告集	部会幹事 … 8
JLABooklet『学校図書館とマンガ』その後	高橋恵美子… 9
『塩見昇の学校図書館論 インタビューと論考』をどう読むか	横山道子 …10
部会からのお知らせ	…12

## 大事なお知らせ

2024年度第52回夏季研究集会の要項を同封しています。

今年度も、会場参加とWeb参加の併用方式で開催予定です。詳しくは要項をご覧ください。もし要項や要項添付の郵便振替の用紙が同封されていない場合は、恐れ入りますが、部会連絡先までお知らせ下さい。

## 特集 高校の非正規雇用職員の現状

高校の現状がどうなっているかを明らかにするために、1都4県（東京、神奈川、埼玉、千葉、長野）の方に依頼して、現在の状況を報告していただきました。報告のしかたは、各県の実情に合わせています。

なお次号でも、他の府県の状況をできる範囲で掲載したいと思います。この記事を読まれて、ご自身が所属する自治体の状況を報告したいと思われた方、ぜひ情報をお願いします。

連絡先：[gakutobukai@jla.or.jp](mailto:gakutobukai@jla.or.jp)

### 千葉県 学校司書の配置状況

<千葉県高等学校教育研究会学校図書館部会司書の会「学校司書実態調査」より>

#### 1 部会加盟校

県立高校	120校
(全121校 通信制高校1校のみ未加盟)	
120校の内訳:全日制 104校、全定併設 14校 (3部定時制併設1校を含む)、3部定時制 2校	
県立特別支援学校	1校(全37校)
市立高校	7校(全7校)
私立高校	36校(全61校)

#### 2 県立高校における学校司書の配置

学校司書配置校	116校(120校中)
司書在籍数	123人(代替者4人を含む)
内訳 正規職員	:100人
再任用職員(フルタイム)	:14人
臨時任用職員(フルタイム)	:9人
身分はいずれも実習助手(教育職)	
新規採用の人数は不明	

#### 3 現状

千葉県立高校では「(学校)司書」としての採用はない。各校に定数で配置されている実習助手を学校裁量で図書館業務担当にし、担当になった実習助手

を「学校司書」と呼んでいる。

教育職であるため委員会の顧問や探究学習のサポートに入ることはスムーズであるが、「(学校)司書」として採用されていないために様々な問題点がある。

実習助手が学校図書館業務を担当するかどうかは学校裁量のため、司書不在校が存在する。また、図書館担当になっても「図書館専任」とは認められず、他の業務(教務・進路・情報・家庭科等々、学校による)と兼務になる学校も多い。(37校 40人)教育職であるためか、部活動の顧問や学年の副担任を充てる学校もある。

資格不問で実習助手として採用されるため、図書館の仕事は何もわからない状態で着任する人も多くいる。異動も実習助手として行われるので、異動した先で必ず司書として仕事ができるわけではない。その反対の場合もあるので、「実習助手としてはベテランでも図書館担当は初めて」という人も毎年のように現れる。

千高教研学校図書館部会では学校図書館職員の制度確立を求める要望書を、毎年、県教育委員会に提出している。

## 東京都立高校の職員状況 (2023. 4. 現在)

東京都立井草高等学校 中村崇

### 1. 学校数 (特別支援学校は除く)

○都立高校等学校等 校数 合計 189 校

- ・全日制 125 校
- ・全定併置校 42 校
- ・昼夜間定時制(通信制併置 3 校含む) 12 校
- ・中高一貫校・小中高一貫校 10 校 (中等教育学校または高校+附属中 or 附属小中の学校)

### 2. 学校司書配置数 合計 344 人

○正規職員の学校司書(再任用含む)

40 校に 46 人(うち再任用 13 人)

○会計年度任用職員「学校図書館専門員」

144 校に 287 人(基本的に 1 校 2 名)

○その他の会計年度任用職員 1 校に 1 人(島しょ部)

(未配置 5 校……いずれも島しょ部)

### 3. 正規職員の位置付け

○学校事務職員。職名は「司書」で発令あり。

### 4. 非正規雇用職員の位置付け

○会計年度任用職員(パートタイム)の「学校図書館専門員」……287 人

○その他の会計年度任用職員……島しょ部で 1 名の会計年度任用職員を配置(これは上記「専門員」とは別職の扱い)。

また「専門員」配置の全定併置校では、それに加えて「専門員」とは別の「アシスタント職」なる会計年度任用職員も配置されている場合もあるが(2 名のパ

ートタイム「専門員」ではカバーしきれない時間を埋めるための配置)その採用・配置は学校により異なるため配置の総数や詳細は不明。

### 5. 現状の問題点・今後の見通し

○民間委託が廃止された後の職員配置が、非正規職員の配置となってしまった。都は正規学校司書退職後も同様に非正規職員に置き換える方針であり、正規の学校司書の新規採用がないことが問題。教育長がその旨議会答弁しており、今後も当分の間は、新規採用はなく非正規化が進行すると思われる。

○非正規化は年間 192 日勤務のパートタイム職員を原則として 1 校に 2 名配置し交代で勤務・開館させるというもの。図書館を統括するのは教員(司書教諭)とされている。また、公募によらない再度任用は 4 回まで(いわゆる 5 年雇い止め)であり、不安定雇用である。年収も 200 万円台前半の水準で、東京で生活するのは厳しい。このような配置なので「配置数」は多数になるが、その実情には問題が多い。「学校図書館専門員」との職名は立派だが、専門性の発揮は全体的にはなかなか難しいのではないかと。

○特別支援学校や東京の私立高校の状況については分からない。東京の公立小中学校については、学校図書館問題研究会東京支部が詳細な調査を実施し、結果を公表している(同支部ホームページ参照)。なお、同調査によれば、東京の公立小中学校に配置されているのは、すべて非正規職員である。

## 神奈川県立高校の非正規雇用職員の状況について（2023年度の配置状況）

神奈川県高等学校教育会館県民図書室 司書 松本美智子

### 1 県立高校の学校数 合計 137 校

全日制	114 校
全定併置	17 校
全定通併置	1 校
昼間定時制	2 校
通信制	1 校
中等教育学校	2 校

学校数などの統計には、中等教育学校を含み、特別支援学校は含まない。

### 2 学校司書の配置

正規職員	65 人
非正規職員	100 校(98 人)
合計	165 校(163 人)

### 3 正規職員の位置づけ

事務職員(学校行政職給料表適用)

### 4 非正規職員の位置づけ

・臨時的任用職員 56 人

フルタイムでの勤務。

・再任用職員 20 人

基本はフルタイムだが、事情により3/4勤務が認められる。その場合、不足する時間を補う会計年度任用職員が配置される。

・会計年度任用職員(パートタイム)24 校 22 人

主に全定併置校などの定時制に勤務。

### 5 現状の問題点

2022 年度の採用選考において、司書 A(大卒程度 30 歳まで)と主任司書(実務経験を問われる)の採用選考に加え障害のある人を対象とした選考が行

われ、合格者は8名(司書 A6名、主任司書2名、障害者雇用0名)。

2023 年度学校へ配置されたのは、司書 A1名、主任司書1名。県立図書館への配置は司書 A1名、主任司書1名だった。司書 Aは4人が辞退。

組合(神奈川県高等学校教職員組合)では、定時制への正規職員配置を求めているが、実現はしていない。また、会計年度任用職員(パートタイム)の時間数拡大などを求めているが、いまだに短時間勤務が多く、開館できない曜日や時間がある学校が多いのが現状。

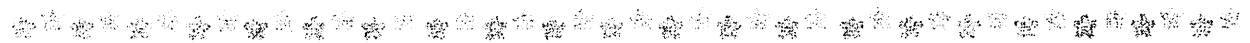
### 6 今後の見通し

2015 年4月の採用再開以来、採用は継続されているが、欠員臨任の解消には程遠い現状がある。今後も採用を継続し、学校図書館への配置人数を増やしていくことが最重要課題。

臨時的任用職員として働いている学校司書がチャレンジできるよう、司書 A 採用試験の年齢制限、主任司書採用選考の受験要件(図書館実務経験8年以上)の緩和を求めていく必要がある。

これまで再任用終了後、フルタイムで働く道が閉ざされていたが、組合での交渉の結果、2024 年4月より、臨時的任用職員への名簿登載が可能になった。任用されるという確約はないが、任用されれば 70 歳まで勤務することが可能になった。

採用は継続しているものの、正規職員が減少し、臨時的任用職員・再任用職員・会計年度任用職員(パートタイム)など有期雇用の職が混在する状況は、今後も続いていくと思われる。正規職員の採用を求めるとともに、非正規雇用職員の処遇改善も重要な課題である。



## 長野県立高校の非正規雇用の学校司書の状況について

長野県松川高等学校 学校司書 林貴子

### 【2023 年度の配置状況】

・県立高校の学校数 78 校

内訳 全日制 59 校

全定通併置校 16 校

定時制・通信制 3 校

分校・キャンパス・サテライト校 計 4 校

・学校司書 計 82 人

正規職員 43 人 非正規雇用職員 39 人

正規職員の位置づけ 図書館専任の行政職員

非正規雇用職員の位置づけ

・全日制には学校規模によらず、フルタイムの会計年度任用職員を配置している。

・キャンパス、サテライトの 3 校にはパートタイムの会計年度任用職員を配置している。

### 現状の問題点

2000 年前半から採用試験が行われず、2008 年には学校司書の民間委託の提案がなされた。その後組合との交渉を経て、2012 年に特別行政事務嘱託員による採用が始まり、2020 年にフルタイムの会計年度任用職員に移行した。その際、学校図書館の機能を維持するために、現状の勤務条件から後退することのないようフルタイムであること。単年度契約ではあるが、同一校に 5 年までは公募によらず勤務が可能であること。また司書資格を要する職であることから給与面の配慮があった。勤務年数による雇用打ち切りはないが、募集がなければ継続して働くことができない。採用後、仕事が多方面にわたることや、図書委員会指導などの生徒との関りが負担となり、短い期間で退職することもある。非正規においても勤務者の年齢は上がっている。

正規職員に関しては、2012 年に正規職員の採用試験が復活したが、その後も数年に 1 度、県立図書

館配属も含めて 1 人しか採用されなかったため、正規職員が学校数の半分以上まで減少している。かつ、20 代から 30 代がほぼいないため年齢構成のバランスが崩れている。図書管理システムや新規採用者等の研修に関わる委員会と非正規職員の業務支援は、正規の司書が担当しているが、業務の過重となっている。

勤務年数の関係で、正規と非正規の勤務校のシャッフルがうまくいかず、どちらかが続く勤務校が固定される問題がある。地域校では非正規職員の応募がないことを危惧し、正規職員を当てようとするのが固定化の要因にもなっていると思われる。また地域によっては職員募集を掛けても応募がなく、年度当初から司書が不在になった例も複数ある。一番大きな問題は待遇の格差が両者の間に見えない壁を生じさせていることである。

### 今後の見通し

2023 年の採用試験では久しぶりに 2 名の合格者があった。会計年度任用職員の待遇改善については、2023 年度の組合交渉で、勤勉手当支給、期末・勤勉手当の支給対象となる任用期間の改善、4 月に遡っての賃金改善が合意された。今後、複数人採用が継続的に続けば、それなりに正規職員が増えるが、退職者も増えるため一朝一夕には職員バランスは回復しない。また、フルタイムとはいえ雇用の安定しない非正規職員が増えることは、学校司書の仕事の継続性や専門性にとって問題である。明るい兆しといえるのは県教育委員会が 2023 年度から、今後の学校図書館の在り方について学校司書も含めたワーキンググループを設置している。学校図書館の果たすべき役割から、学校司書の在り方について検討が行われる。

## 埼玉県立高校の司書の状況 2023 (R5) 年度

埼玉県立越ヶ谷高校図書館 主任専門員 石黒順子

### 1、学校数 138校

		高校数	司書人数
県立	全日制	114	115
//	全定併置	22	22
//	通信制	1	1
//	中高一貫	1	3
合計		138	141

(3人配置1校、2人配置1校)

### 2、学校司書の配置

正規職員	113人
非正規職員	18人
再任用職員	10人
合計	141人

### 3、正規職員の位置づけ

行政職

職名は「司書」「主任司書」「担当部長兼主任司書」

### 4、非正規雇用職員の位置づけ

・非正規職員(臨時的任用職員) : 18人

・県立高校の再任用職員 : 10人

基本的にフルタイム。パートタイマーはいない。

### 5、現状の問題点

・県立高校の新採用職員は、新採用2人、氷河期試

験採用4人。12年間の採用中止の後、2013年以降の採用者が半数を上回った。

・特別支援学校38校のうち、盲学校にだけ司書(正規)が配置されている。特支にも図書の需要があるが、先生が忙しくて手が回らない。教室不足により図書室が教室になり、書棚は廊下に出されている学校も多数あると聞く。司書が配置されることが望ましい。

・R5年度まで、再任用(専門員)は5年間、65歳まで。給与も現役の約6割。本人の申請で主任専門員の希望の有無を回答、その後、主任専門員選考が実施される。選考方法は、勤務実績により行われる。「主任専門員」になると、給与は現役の約6割になる。定年延長の人は7割なのに。

・市立高校は6校。さいたま市、川越市は市立図書館と人事交流がある。川口市立高校の司書は参与(3名)、会計年度職員(1名)

・私立は、司書が複数名いて充実している学校と、司書が全くいない学校に分かれる。

・臨時的職員は、1年ごとに異動しなければならなかったが、R5年度から同一校継続勤務(2年まで)が可能になった(R6年度からは3年に延長される)。しかし正規職員の配置が優先されるので、本人に残留希望があっても必ず継続できるかどうかはわからない(R5年度は同一校に継続勤務できたのは2名のみだった)。

・埼玉には会計年度職員はいないが、パートタイムなら定時制への配置も考えられる。

## <まとめ>

多少乱暴ですが、報告された各都県の司書の人数における、非正規職員の割合を出してみました。高校数は、都立・県立高校に限ります。なお、再任用職員については、自治体により正規・非正規の判断が異なりますが、この表では正規職員として扱っています。さらに長野県の正規職員 43 人のうち 8 人が再任用職員であることは、5pの記事には記載がありませんが、直接確認しています。

各都県によって、実情がとてつ違ふことがわかります。

	高校数 (校)	高校司書 数	正規	正規 再任用	非正規 フルタイム ※	パートタイム 会計年度 任用職員	非正規 合計	非正規 割合
東京都	189	344	33	13	0	287	287	83.4%
神奈川県	137	165	65	20	56	24	80	48.5%
埼玉県	138	141	113	10	18	0	18	12.8%
千葉県	120	123	100	14	9	0	9	7.3%
長野県	78	82	35	8	36	3	39	47.6%

※非正規フルタイム職員 神奈川、埼玉、千葉は臨時的任用職員、長野はフルタイム会計年度任用職員

## JLA 学校図書館職員状況調査について

日本図書館協会 理事（学校図書館部会） 高橋恵美子

JLA 非正規雇用職員に関する委員会では、自治体教育委員会対象の調査と学校司書個人向けの Web 調査を行いました。現時点では、両調査とも報告がまとまっていませんが、どのような状況かを報告します。

### 学校図書館職員雇用状況調査（自治体）

◎調査対象：政令指定都市 20、東京 23 区、政  
令指定都市以外の県庁所在地の市 31

（計 74 自治体）

◎調査時期：2023 年 7 月（末日締切）

◎記入：2023 年 5 月 1 日現在

◎回答数：70 自治体

◎回答なし：港区、名古屋市、福岡市、鹿児島市  
（計 4 自治体）

### 学校図書館職員に関する実態調査（個人向け）

◎調査対象：正規職員を含む学校司書

◎調査時期：2023 年 11 月下旬～2024 年 1 月  
（2024 年 1 月 31 日締切）

◎回答数：894

調査結果のまとめができましたら、学校図書館部会  
のホームページ、部会報等に掲載する予定です。

# 日本図書館協会学校図書館部会 第51回夏季研究集会東京大会報告集

昨年7月に開催された日本図書館協会学校図書館部会第51回夏季研究集会東京大会の「報告集」が出来上がりました。

本田由紀先生（東京大学大学院教育学研究科教授）の講演記録や、埼玉県立飯能高等学校すみっこ図書館学校司書・湯川康宏さんの報告他、盛りだくさんな内容です。ぜひお買い求めください。

- ・ 報告集をご希望の方は、学校図書館部会メールアドレスからお申し込みください。
- ・ 頒価は、¥1,000（送料込）です。
- ・ 各地域や集会等で販売くださる場合は、必要部数をまとめてお送りしますのでお知らせください。

\* 学校図書館部会メールアドレス [gakutobukai@jla.or.jp](mailto:gakutobukai@jla.or.jp)

## 《講演》

「学校図書館と探究学習」

本田 由紀 （東京大学大学院教育学研究科 教授）

## 《部会報告》

「学校図書館をめぐる状況」 堀岡 秀清 （「図書館年鑑」編集委員）

## 《実践報告》

報告1 「学校図書館を知らない司書が学校図書館を作ったら」

湯川 康宏 （埼玉県立飯能高等学校すみっこ図書館 学校司書）

報告2 「社会科の授業づくりで考えていること」

福田 恵一 （元中学校社会科教諭）

報告3 「どうする！これからの学校図書館

～宮ノ下っ子を深い学びへと誘う～」

武林 真理 （鳥取市立宮ノ下小学校 校長）

津村 玲子 （鳥取市立宮ノ下小学校 学校司書）

他、研究討議等





## JLBooklet『学校図書館とマンガ』その後

日本図書館協会 理事 (学校図書館部会) 高橋恵美子

JLBooklet『学校図書館とマンガ』(高橋恵美子 笠川昭治 日本図書館協会)の発行は2022年10月だった。その後、2023年4月11日朝日新聞デジタルの記事で、フロリダ州の公立校で『暗殺教室』『アンネの日記』の漫画版が撤去されたと報じられた。また、2023年6月24日読売新聞夕刊に「学校図書室 マンガ充実」の記事が出た。読売新聞の記事では、担当記者の取材を受けた。2024年1月21日「学校図書館サポーターズ・なごや」の1月講習会で『学校図書館とマンガ』の話をした。以上のことを通して、改めて考えたこと、伝えたいことが出てきたので、ここでまとめておきたい。

### 1 アメリカの動向について

アメリカでは、もともとこの本は問題だとして学校図書館から撤去されることは、よく起こる。そうした本には、ノーベル賞受賞作家の本も含まれる。この件は、2023年6月19日のNHK国際ニュースナビ(\*)でもとりあげられていて、この記事によると去年1年間に「禁書」となった本は1835作品、5年前の4倍以上だとのこと。この動きの背景に保守派の組織的な活動があること、また新型コロナの影響もあるとのことである。

ところで、アメリカの学校図書館に『暗殺教室』があることに疑問を持った方はいないだろうか。これにはアメリカ図書館協会(ALA)ヤングアダルト図書館サービス協会(YALSA)のGreat Graphic Novels for Teensの存在がある。『学校図書館とマンガ』では、主にTop Tenリストを中心に紹介しているが、Top Tenの背後にGreat Graphic Novels for Teensのリストがあり、60タイトルから100タイトルのマンガがリストアップされている。『暗殺教室』は、2016年のGreat Graphic Novels for Teensにあがっている。アメリカの学校図書館に『暗殺教室』

が入っていたのは、そうした事情によると思われる。『アンネの日記』の漫画版は、2019年のTop Tenリストに含まれており、アメリカ図書館協会が10代におすすめとしたマンガが、問題にされたということになる。

なお、1月21日名古屋で話をする際に、2023年のGreat Graphic Novels for Teens Top Tenに含まれている日本のマンガを調べた。『葬送のフリーレン』(山田鐘人原作 アベツカサ)と『僕らの色彩』(田亀源五郎)だった。さらにこの原稿を書くにあたって、2024年がどうなっているか調べたら、『君は放課後インソムニア』(オジロマコト 小学館)が入っていた。石川県七尾市を舞台にした高校生たちの物語である。

### 2 読売新聞の記事(2023.6.24 夕刊)

「学校図書室 マンガ充実」の見出しにはがっかりした。なぜ学校図書館と書かなかったのか。この思いは、その後学校図書館に関する集会で取材を受けた記者の方と会う機会があり、直接伝えた。この記者の方は、学校図書館と書いたのだが、デスクに直されたとのことだった。

さらにこの記事のリードの最初の文章は、「学校の図書室(学校図書館)にマンガを置く高校や中学が広がっている。」となっている。私は、これは事実ではないと考えている。置いている学校と置いていない学校の格差はあるが、広がっているわけではない。むしろ、マンガを置くことは難しくなっているのではないかと考えている。理由は、学校司書の正規職員が減って、非正規雇用職員が増えていることにある。学校図書館からマンガを図書館に置こうと声をあげるのが難しくなっていると思っている。

### 3 絵本とマンガ

ここからは、2024年1月21日「学校図書館サポーターズ・なごや」の1月講習会でのやりとりから考えたことになる。最初に質問されたのが、「マンガを入れるべきでないと考えている人に、どういう言葉で説明したらいいか」というものだった。その時は、「そのための言葉を今探しているんです。」としか言えなかった。さらに絵本の話にもなった。絵本は、図書館資料として認知されている。その時はそこで話が終わってしまったが、改めて絵本とマンガについて考えた。

『アライバル』(シヨーン・タン 河出書房新社)という作品がある。この本は、2008年のGreat Graphic Novels for Teens Top Tenに入っている。アメリカではグラフィックノベル(マンガ)、日本だとたぶん絵本として扱われている。学校図書館で所蔵しているところも多いと思う。『アライバル』は、絵だけで表現されていて、文字・文章がない。

絵本もマンガも、通常、絵と言葉で表現されている。絵本がよくて、なぜマンガだとダメなのか、マンガがダメな理由はなんなのか、誰か納得のいく説明をしてほしいものである。

#### 4 マンガを読むことは読書である

私自身は、マンガを読むことは、読書と考えている。『学校図書館とマンガ』で、OECD生徒の学習到達度調査(PISA)において、readingの対象にコミックが含まれていることを書いた。また、2020年の出版販売額の総額にコミックが占める割合は38%である

ことも示した。マンガを読むことを読書と考えることは、世の中では実は当たり前になっているのではないか。図書館・学校図書館の世界、また子どもの読書の世界だけが、いわゆるマンガ、コミックスを別扱いにしている。

毎年行われている全国SLA学校読書調査の「今の学年になってから読んだ本」は、「マンガをのぞく」となっているが、学習漫画(まんがでよくわかるシリーズ、科学漫画サバイバル)に関しては、書名があがっている。マンガだからダメだというわけではなさそうである。

図書館・学校図書館の世界、また子どもの読書の世界で、いわゆるマンガ、コミックスが読書と考えられるようになるのは、そんなに先のことではないように思う。いわゆるマンガ、コミックスはダメだということであれば、その理由を明確に示すべきである。そして、マンガが原作なのに、小説版やノベライズ本でなければ入れられない、言い換えればそこまでしてしてマンガ、コミックスを排除することを、図書館としてやっていいのかという問題があるのではないか。もちろん、マンガ、コミックスを学校図書館に入れる難しさはよく承知しているのだけれども。

(\*)NHK国際ニュースナビ「本が消えていく? アメリカの学校でいったい何が?」

[https://www3.nhk.or.jp/news/special/international\\_news\\_navi/articles/feature/2023/06/19/32270.html](https://www3.nhk.or.jp/news/special/international_news_navi/articles/feature/2023/06/19/32270.html) (最終閲覧日:2024.2.29)

---

## 『塩見昇の学校図書館論 インタビューと論考』をどう読むか

神奈川県立深沢高等学校 横山道子

手に取るとずっしり重い。中身もずっしり詰まっている。既に書評や紹介が多数あり2023年11月に日図研の研究例会も開催されたが<sup>(1)</sup>、しっかり読了された方はどのぐらいおられるだろうか?ここでは、僭越な

がら、忙しい学校図書館職員がこの重みに負けず本書を読むための、いわば攻略法を提案する。

塩見先生の著作を多く読んでいる方、語り口が思い浮かぶ方には、素直にインタビューの冒頭から読む

ことをお勧めしたい。学生時代に小倉親雄先生から教えられた”Banned Books”（禁書）、戸塚廉『いたずら教室』、大阪市立図書館でのレファレンス「囲い込み」批判、教育実習指導教官としての学校現場での見聞など、先生の学校図書館観がいかに形成されて来たか考えるヒントが散りばめられている。資料「学校図書館関連を主とする年譜」を参照しながら読むのもよい。

学図研の会員なら第4章「学校図書館の発見」から読んでも良さそうだ。先生は、図問研、全国SLA、日図研で大きな存在感を示し、学図研の発足にも関わられた。その八面六臂の活躍とともに日本の学校図書館史を辿ることができる。

学校司書（あるいは司書教諭）の立場に悩む人は、第5章「学校図書館職員論」が興味深いはずだ。学校司書という言葉をはじめて使ったのは全国SLAであることや、学校図書館法の紆余曲折などについて詳しく語られている。充て職の司書教諭が学校図書館の「専門的職務を掌」るのは無理で、司書教諭は学校図書館を生かす学校経営の旗振りし学校図書館のプロである学校司書がきちんと仕事できるような環境整備をすべきだ、という論には説得力がある。前部会長である高橋恵美子さんの修士論文<sup>(2)</sup>と併せて読むと理解が深まるだろう。

教職員と一緒に読みたいと思うのは、第6章「学校図書館の教育力」。学校図書館と学校教育のかかわりについて説明しようとする5つの図を読み解くのにどのくらいかかるだろうか。学校図書館の教育力が学校の諸活動と結びついて学校の教育を変えることについては、塩見先生が巻末の「インタビューを受けて」で実践が未熟だと指摘されている部分である。だからこそ、学校図書館にかかわる全ての人を読んで考え実践を重ねていきたいところだと思う。

読書履歴の活用や選書に迷う人は第7章「学校図書館における『図書館の自由』」から読んでほしい。「学校の中の一つの独立した役割や機能を備え、一定の運営方針を基に、学校の中であるはたらきをして

いる、と言えるような存在になるには」「学校図書館には判断の主体があります」と言うことが必要だという。だが「私がやっていますと言って、他の人に触らせない、本は誰にも干渉させないで私が選んでいますという」のは「決して良いこととは思わない」、「学校という組織の一部であるということから良くも悪くも離れてはいけない」、という。この「相対的自立性」に私は深く共感するのだが、皆様はどうお感じになるだろうか。

丁寧な注釈に支えられたインタビュー全体を読了したら、第Ⅱ部のインタビュー＝日図研学校図書館史研究グループのメンバーによる論考に進もう。錚々たるメンバーが、あなたの考えたことと照らし合わせるのを待っている。

明日からの仕事を変えるパワーを持つ、他では得難い「ずっしり」である。

(1) 日本図書館研究会「報告 第391回研究例会『塩見昇の学校図書館論 インタビューと論考』を刊行して(2023.11.11)」

<https://www.nal-lib.jp/wordpress/wp-content/uploads/2024/01/391report.pdf>

(最終閲覧日:2024.2.11)

(2) 高橋恵美子「1950年から2000年にかけての公立高校学校司書の図書館実践：教科との連携と「図書館の自由」の視点から」2013

<http://hdl.handle.net/2261/53608>

(最終閲覧日:2024.2.11)

『塩見昇の学校図書館論 インタビューと論考』

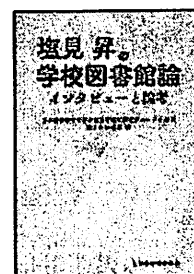
塩見昇 語り手

日本図書館研究会 学校図書

館史研究グループ 編著

日本図書館研究会

2023



## 部会からのお知らせ

### ◎部会総会についてのお知らせ

NEW

2024年度部会総会は、6月1日(土)午後2時～4時に、日本図書館協会会館で開催します。

2024年度部会総会のweb参加の方法や委任状提出方法は、図書館雑誌5月号に掲載又は同封される各部会総会の「お知らせ」でご案内しますので、必ずご覧下さいますようお願いいたします。総会を成立させるため、ご出席または委任状提出へのご協力をおねがいします。

また、総会へのご質問・ご意見・ご提案などがある方は、4月15日までに、部会アドレス宛に、文書(メール)でお送りください。

総会資料は事前に部会ホームページに掲載の予定です。会場参加の方は、各自印刷してご持参下さい。

### ◎2024年度第52回夏季研究集会について

NEW

今年度も、会場参加とWeb参加の併用方式で開催予定です。詳しくは同封の要項をご覧下さい。

もし要項や要項添付の郵便振替の用紙が同封されていない場合は、恐れ入りますが、部会連絡先までお知らせ下さい。皆様のご参加をお待ちしております。

### ◎夏季研究集会報告集ができました

NEW

2023年第51回度夏季研究集会の報告集ができました。参加者と報告集購入のお申込みを頂いた方には既に発送しました。まだ届いていない場合は、部会アドレス宛にご連絡下さい。報告集の通販も承ります。送料込で1部1,000円です。通販ご希望の方は、部会アドレス宛にお問い合わせ下さい。(内容詳細は7p参照)

### ◎今後の次号部会報発行予定

《情報・原稿募集…各地の情報・実践記録・研究会集会等イベント開催情報 等々お知らせ下さい》

次号76号は2024年7月頃、77号は2024年11～12月頃発行の予定です。皆様からの情報や原稿も募集しております。図書館関係の研究会・集会等の開催情報は、日時やテーマ等要点をまとめて掲載します。〆切は発行予定時期の約1ヶ月前が目安になります。詳しくは部会までお問い合わせ下さい。

### ◎部会メーリングリストへのご参加のお誘い

部会員相互の連絡や、皆様からの意見を部会運営に生かすために、メーリングリストを開設しています。参加ご希望の方は、部会メールアドレス [gakutobukai@jla.or.jp](mailto:gakutobukai@jla.or.jp) 宛にご連絡下さい。参加にあたっては、(1)氏名(本名)(2)日本図書館協会の会員番号(図書館雑誌の宛名ラベルに記載されています)(3)所属(ない方は不要)(4)メールアドレスをお知らせ下さい。※メーリングリストへの参加は部会員に限らせていただいております。協会を退会された方や部会を移動された方など、部会員でなくなった場合には、ご連絡下さい。部会員でないことが確認された場合、配信を終了させていただきます。

### ◎異動・変更等について

人事異動、転居、改姓等された方は協会事務局へご一報下さい。ただし、メーリングリストに登録したメールアドレスの変更は、部会アドレス宛にお知らせ下さい。メーリングリスト参加者が協会を退会や所属部会を変更された場合、協会事務局に加えて、部会にもお知らせ下さい。

### ◎幹事会はどなたでもご参加いただけます／皆様からのご意見・ご提案をお待ちしています

学校図書館部会は役員が幹事会を開いて様々なことを話し合い、運営しています。幹事会には、部会員であればどなたでもご参加頂けます。開催日時・場所等は部会連絡先にお問い合わせ下さい。また、遠方の会員の方など会議への直接の参加が難しい方はweb参加も可能です。ご意見・ご要望などをお寄せ下さい。役員一同、部会員の意見を反映した部会運営に努めたいと思っています。よろしくお祈りいたします。